第１部　基調講演　「文化財としての食文化とは」

文化庁 文化財調査官（食文化部門）

大石 和男 氏

プロフィール：
食文化の文化財をプロデュースする

日本酒・日本茶・日本料理といった言葉からもわかるように、我が国には世界に誇れる食がたくさん存在しています。そしてこれらの価値を積極的に認め、国内外にその魅力を伝えていこうとする動きも、近年目立つようになってきました。ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」（現在は「伝統的酒造り」が審査中）は、その代表例と言えるでしょう。文化庁では、「単なる美味しい食」を超えた「文化としての食」に目を向け、これらを文化財として認定しています。例えば無形文化財に登録されました「京料理」や「菓銘をもつ生菓子」では、食以外の多様な日本文化との結びつきを見ることができます。食と文化が結びついた食文化について、文化財という切り口から考えてみたいと思います。

第２部　パネルディスカッション

パネリスト

料理研究家

大原 千鶴 氏

プロフィール：
京都・花背の料理旅館「美山荘」の次女として生まれる。幼少から里山の自然に親しみながら和食の心得や美意識を育む。
二男一女の母として培った、家庭的かつ美しい料理に定評がある。
雑誌やテレビ出演、料理教室、エッセイ執筆、CMやドラマの料理監修などで活躍。

■「食文化の理想と現実」

食文化は大切なものではあるが、家庭でのそれの多くは女性が担ってきた。現在のように働く女性が多くなってきた今、本当の意味で食文化のあり方、捉え方を見直すべき時だと感じている。

京料理 萬重（創業昭和 12 年）三代目

田村 圭吾 氏

プロフィール：
2004 年から小学校での食育活動をはじめ、京都市教育委員会推進会議委員・NPO日本料理アカデミー地域食育委員長や料理業界の京都料理芽生会会長・同全国副理事長を歴任し、同全国連合会 監事を務める。
2019 年には文化庁から文化交流使に指名され、ニュージーランド・エルサルバドル・北マケドニア・ハンガリー・レバノン・ドバイにて日本料理を啓蒙する。近年では京料理の登録無形文化財への活動に尽力する。

■ 世界からの視点　日本料理

料理を通して自然の恵みに感謝し、互いを尊重する日本の文化性・精神性や世界で注目の「うま味」を使いヘルシーな日本料理が各国で注目されたことをお話します。

株式会社増田徳兵衛商店（清酒月の桂）14 代目

増田 徳兵衛 氏

プロフィール：
1978 年 3 月　京都産業大学経済学部卒業
京都・伏見の中で最も古い蔵元のひとつ株式会社増田徳兵衛商店　代表取締役社長（14 代目）
伏見の特定農家と契約し、社長自ら田植えや稲刈りをして無農薬有機栽培米「祝」や京都原産の「旭 4 号」米を復活させ、独自の日本酒を発売する。季節感と個性を大切に「酒は文化なり」という神髄を示す。

■ 最近の日本酒をめぐる文化事情

ユネスコ無形文化遺産「伝統的酒造り」と、10 年目「日本酒で乾杯条例」、そしてこれからの日本酒未来「日本酒 NFT」に向けて。

文化庁 参事官（生活文化創造担当）付文化財調査官

吉野 亨 氏

プロフィール：
平成 23 年に國學院大學大学院文学研究科神道学専攻を満期退学の後、平成 26 年 3 月に「神饌の研究」にて博士号（神道学）を取得する。平成 27 年から八潮市立資料館に公文書保存専門員として 2 年勤務の後、平成 29 年 4 月に生活文化を担当する芸術文化調査官として文化庁に入庁、令和 4 年に現職。
茶道・華道をはじめとする生活文化等を専門とし、調査研究事業等を担当する。
著書に『特殊神饌についての研究』（武蔵野書院、平成 27 年）

■ 祭り・行事に見る伝統的な食文化

神社や寺院などで行われる祭りや行事には、時に地域特有の食にまつわる文化が伝承されている。それらの日本の伝統的な食の様相を垣間見ていく。

京都産業大学文化学部 学部長

村上 忠喜

プロフィール：
京都産業大学文化学部教授。専門は日本民俗学。近年では、祇園祭をはじめとする祭礼文化、文化遺産研究をおこなう。祇園祭の復興山鉾、大船鉾と鷹山の復原研究に主導的に携わった。食に関する研究としては、和食のユネスコ無形文化遺産代表一覧表への記載とその影響などについて考察している。昨年、京都産業大学・鳥取県連携フォーラム「酒と食文化でむすぶ鳥取と京都」でスピーカーとして登壇した。

■ 郷土食をめぐる文化事情

地域の食材に支えられた郷土食は、地域社会の歴史の反映でもあります。京都のような歴史都市では、広い後背地の農山漁村の恵みによって豊かな食文化がもたらされました。近年観光資源としても注目される郷土食を通して地域文化を考えたいと思います。

コーディネーター

京都産業大学文化学部 准教授

笹部 昌利

プロフィール：
京都産業大学文化学部准教授。幕末維新政治史・日本近代史を専門とする。鳥取藩・土佐藩・薩摩藩を対象とする幕末政治史の研究や、近代における幕末「志士」認識に関する研究により、19 世紀における日本の政治社会の特質について考察している。
近年では京都産業大学・鳥取県連携フォーラム「酒と食文化でむすぶ鳥取と京都」をコーディネートし、京都市内の飲食店においても連携イベントを開催した。